大学・高専機能強化支援事業（支援２：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【高等専門学校】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	G136110110300	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
高等専門学校名	阿南工業高等専門学校	設置区分	国立	事業計画名	阿南高専における高度情報専門技術者育成事業
学校種	高専	都道府県	徳島		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度			令和5年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	①　８月　情報系プログラムの教学マネジメント及び入学試験の検討開始（令和6年3月まで） ②　８月　情報系プログラムの検討開始（令和6年3月まで） ③　８月　高度情報教育センター建設のための建物取得に関する調査及び検討開始（令和6年3月まで） ④　８月　高度情報教育センターにおける組織及び施設設備の検討開始（令和6年3月まで） ⑤　10月　高度情報教育のための情報系分野の教員・事務補佐員公募の実施（令和6年4月着任） ⑥　10月　情報系プログラムのための教材作成の検討開始（令和6年3月まで）	①8月から情報系プログラムの内容について企業側の視点を取り入れた教学マネジメントを地元企業（株式会社レーザーシステム、日亜化学工業（株）等）と連携して企業ニーズに則したカリキュラムを検討した、8月から入学試験について検討を重ねた結果、令和7年度入学試験はこれまでの枠組みの中で実施することにした（令和8年度以降について検討中） ②8月から9月にかけて建設コース・化学コースの情報系プログラムの人数と名称を決定、8月から各情報系プログラムのカリキュラムについて検討を開始 ③8月から建物取得に関する調査を開始し、校内候補地4箇所を選定、12月から1月にかけて施設設備委員会にて高度情報教育センター建設予定地を決定し、2月から設計調査シートの作成を開始 ④8月から高度情報教育センターに関する組織、規則等を検討を行い、12月に高度情報教育センター規則、高度情報教育センター委員会規則を策定、1月に関連する規則改正を各委員会で審議、令和6年4月1日付で高度情報教育センター、高度情報教育センター委員会を設立 ⑤10月情報系分野の教員2名の公募を実施、11月末応募なしのため再公募を実施、令和6年1月に2名の採用面接を実施、令和6年4月1日付で着任、1月事務補佐員の2名公募を実施、1名は2月に再公募を実施し3月に2名採用、3月1名辞退のため再公募を実施、令和6年5月1日付で着任 ⑥10月から情報系プログラムのための教材作成を開始、2月からさくらインターネット株式会社と連携して検討を開始	事業計画⑤について、令和6年4月1日付着任予定で事務補佐員の公募を実施し、採用者が決定していたところ、辞退者がでたため再公募を実施し、令和6年5月1日付で着任した。 ただし、常勤職員が業務を代行したため、本事業の実施に問題はない。	
令和6年度			令和6年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	①　４月　高度情報教育センター棟の設計開始・7月に設計業者選定の公告、令和7年2月までに設計に関する最終確認、2月に工事入札（R6.7.17承認） ②　４月　情報系プログラムの広報活動を実施 ③　~~４~~７月　情報系プログラムの教員公募の実施（令和7年4月着任） 令和7年6月以降できるだけ早い時期での採用を目指して公募を引き続き実施していく（R6.7.17承認） ④　４月　在校生のための高度情報教育を実施（情報教育担当教員2名採用） ⑤　４月　小中学生向け公開講座、出前授業等の実施 ⑥　４月　高度情報教育のためのカリキュラムの検討（企業技術者と連携して実施）	①4月から設計・工事に関するスケジュールや設計要望についての打ち合わせ、ヒアリングシートの作成を行い、学内で基本設計案をまとめ、7月に設計業者選定の公告を実施、9月業者決定し、9月から設計事務所との打ち合わせを開始した。令和7年2月までに設計に関する最終確認を行い、2月に工事入札開始した。 ②4月から情報系プログラムの広報活動として、中学校訪問、リーフレットの製作、ホームページの製作を開始した、7月にリーフレットが完成し、入試説明会での広報活動、8月に中学生体験入学における広報を実施した、令和7年3月にホームページが完成し公開した ③7月に情報系プログラムの教員公募の募集要項について決定し、情報系（機械・電気）2名の公募を開始したが応募がなかったため10月に再公募を実施、12月に再々公募を実施した、この間、複数の応募者があったが、専門分野など公募要件に合致しなかったため、令和7年4月の採用は見送り、令和7年4月以降も公募内容を検討、令和7年6月以降できるだけ早い時期での採用を目指して公募を引き続き実施していく。 ④4月から着任した情報系教員2名が在校生のための高度情報教育を開始し、情報系科目を担当、学生の個別相談などを実施した ⑤4月から小中学生向けの公開講座、出前授業について検討を開始し、8月小学生向けプログラミング体験講座、中学生向けプログラミング初級体験講座、11月青少年のための科学の祭典徳島大会に出展、11月から令和7年1月にかけて阿南市内小中学校でのプログラミング出前授業を実施 ⑥4月から徳島理工系人材育成連携会に参加している企業と連携して高度情報教育のカリキュラムについて意見交換を実施し、学内でのカリキュラム案について検討を行った、また、連携会に参加している徳島大学などとの連携についても検討した	事業計画③について、計画変更承認を受け7月以降、令和7年4月1日付着任予定での公募（機械工学と情報工学（AI・データサイエンス）の融合分野、光工学と情報工学（AI・データサイエンス）の融合分野）を実施したが、応募者がなかったため再公募を12月まで実施した。応募者がなかったため、職位の範囲を特命准教授、特命助教に特命教授を追加、専門分野を機械工学を基盤としてAIやデータサイエンスなどの情報技術を活用する分野、光工学および光量子科学を基盤としてAIやデータサイエンスなどの情報技術を活用する分野と修正し再々公募を実施したところ、複数の応募者があった。しかし、専門分野、面接を通して採用に至らず、計画通り公募を実施しているが、令和7年4月着任が達成できていない。令和7年6月以降早い時期での採用を目指し、さらに勤務形態などを柔軟に対応する公募要件を検討し、引き続き公募を実施していく。 ただし、常勤教員が業務を代行したため、本事業の実施に問題はない。	
令和7年度			令和7年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	①　４月　高度情報教育センター棟着工（~~令和8年5月竣工予定~~）（R8.3.19承認） ②　４月　情報系プログラムの開始 ③　４月　小中学生向け公開講座、出前授業等の実施 ④　４月　企業技術者による講義・実験・実習の実施　（R8.3.19承認） ⑤　４月　在校生のための高度情報教育を実施（R8.3.19承認） ⑥　５月　数理・データサイエンス・AI教育プログラム応用基礎レベルの認定申請（R8.3.19承認） ⑦　３月　アクティブラーニングシステム演習室（高度情報教育センター）の利用開始 ⑧　３月　プログラム1期生の成績等の分析及び生活全般に関するアンケート調査を実施	①高度情報教育センター棟については4月に着工したものの、工期延長により竣工予定が令和8年6月へ変更となった。これに伴い、当該棟内に整備するアクティブラーニングシステム演習室の利用開始時期についても見直しを行っている ②4月より新入生に対して情報系プログラムを計画通り開始した（1年生はコース配属前の情報教育のみ） ③4月から小中学生向けの公開講座、出前授業について検討を開始し、8月小学生向けプログラミング体験講座、中学生向けプログラミング初級体験講座、11月から令和8年1月にかけて阿南市内小中学校でのプログラミング出前授業、２月青少年のための科学の祭典徳島大会に出展を行った ④企業技術者を招いた特別講義・実験・実習を実施した ⑤教育活動については当初計画をさらに拡充し、新たに「在校生のための高度情報教育」を実施したほか、企業技術者による授業を「実験・実習」のみならず「講義」も含めた総合的な内容へと充実させた ⑥教育の質を担保する取り組みとして、令和8年度に予定していた「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」の認定申請を令和7年5月に行うなど、高度情報人材の育成に向けた体制強化を前倒しで実施 ⑦工期が令和8年6月竣工予定へと延長されたため、アクティブラーニングシステム演習室の利用開始等のスケジュールについて計画を変更して対応している ⑧プログラム1期生の成績等の分析、および生活全般に関するアンケート調査を実施し、次年度以降の教育内容の改善や学生支援体制の向上に活用する		
令和8年度			令和8年度自己評価	リストから選択してください。
	①　４月　高度情報教育センターを利用した情報教育、卒業研究・特別研究の実施 ②　４月　企業技術者による講義・実験・実習の実施　（R8.3.19承認） ③　４月　小中学生向け公開講座、出前授業等の実施 ④　４月　在校生のための高度情報教育を実施（R8.3.19承認） ⑤　~~４~~５月　サイバーフィジカルシステム、リモートセンシングシステムの利用開始（R8.3.19承認） ~~⑥　４月　数理・データサイエンス・AI教育プログラム応用基礎レベルの認定申請予定（R8.3.19承認）~~ ⑥　３月　情報系プログラムの成績・受講状況・達成度について分析			
令和9年度			令和9年度自己評価	リストから選択してください。
	①　４月　高度情報教育センターを利用した情報教育、卒業研究・特別研究の実施 ②　４月　企業技術者による講義・実験・実習の実施　（R8.3.19承認） ③　４月　小中学生向け公開講座、出前授業等の実施 ④　４月　情報系プログラムの成績・受講状況・達成度について分析 ⑤　４月　在校生のための高度情報教育を実施（R8.3.19承認） ⑥　３月　志願状況、入学後のコース・プログラム選択等の分析 ⑦　３月　本取組の5年間を総括する			
令和10年度			令和10年度自己評価	リストから選択してください。
	①　４月　高度情報教育センターを利用した情報教育、卒業研究・特別研究の実施 ②　４月　企業技術者による講義・実験・実習の実施　（R8.3.19承認） ③　４月　小中学生向け公開講座、出前授業等の実施 ④　４月　企業の高度情報専門人材に対する求人状況の調査 ⑤　４月　在校生のための高度情報教育を実施（R8.3.19承認） ⑥　３月　志願状況、入学後のコース・プログラム選択等の分析 ⑦　３月　本取組の5年間を総括する			
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
	①　４月　高度情報教育センターを利用した情報教育、卒業研究・特別研究の実施 ②　４月　企業技術者による講義・実験・実習の実施　（R8.3.19承認） ③　４月　小中学生向け公開講座、出前授業等の実施 ④　４月　企業の高度情報専門人材に対する求人状況の調査 ⑤　３月　プログラム受講生に対するアンケート及びプログラム１期卒業生アンケート調査を実施 ⑥　３月　志願状況、入学後のコース・プログラム選択等の分析			
令和12年度			令和12年度自己評価	リストから選択してください。
	①　４月　高度情報教育センターを利用した情報教育、卒業研究・特別研究の実施 ②　４月　企業技術者による講義・実験・実習の実施　（R8.3.19承認） ③　４月　小中学生向け公開講座、出前授業等の実施 ④　４月　助成期間終了後のための高度情報教育センター運営及び情報教育の充実に向けた検討 ⑤　10月　プログラム卒業生の就業状況等に関する企業アンケート調査を実施 ⑥　３月　プログラム受講生に対するアンケート及びプログラム２期卒業生アンケート調査を実施			
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
	①　４月　高度情報教育センターを利用した情報教育、卒業研究・特別研究の実施 ②　４月　企業技術者による講義・実験・実習の実施　（R8.3.19承認） ③　４月　小中学生向け公開講座、出前授業等の実施 ④　４月　助成期間終了後のための高度情報教育センター運営及び情報教育の充実に向けた検討 ⑤　10月　プログラム卒業生の就業状況等に関する企業アンケート調査を実施 ⑥　３月　プログラム受講生に対するアンケート及びプログラム３期卒業生アンケート調査を実施			
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
	①　４月　高度情報教育センターを利用した情報教育、卒業研究・特別研究の実施 ②　４月　企業技術者による講義・実験・実習の実施　（R8.3.19承認） ③　４月　小中学生向け公開講座、出前授業等の実施 ④　10月　プログラム卒業生の就業状況等に関する企業アンケート調査を実施 ⑤　３月　プログラム受講生に対するアンケート及びプログラム４期卒業生アンケート調査を実施 ⑥　３月　本取組終了後の高度情報教育センターの新体制発足			

フォローアップ対象年度	令和7年度	高等専門学校名	阿南工業高等専門学校

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。

⑧ 機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。

⑨ 計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

⑩ 国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

⑪ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

⑫ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。

上記項目の①～⑪の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
すべての項目が要件を満たしている											

①～⑪の要件を満たしていない又は対象でない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑫については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑬,⑭について	現在の状況
⑫文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。	認定を受けている

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
阿南高専ではこれまで地元企業と連携して、寄附講座（日亜化学工業㈱）、LED関連技術者養成講座、共同研究などを行ってきた。連携の中で、多くの企業が専門技術と情報技術を兼ね備えた人材を求めていることを確認している。本取組では、地元企業、徳島大学、神山まるごと高専との情報人材育成連携協議会を定期的に開催し、地元の金融機関も含めた産学官金連携体制を整えている。企業との連携では、専門技術者の講師派遣、実践的な研究課題の提供、機器の提供、モノづくり現場の体験を行う工場視察、企業で使うツールの実践的習得となる共通プラットフォームの導入などを実施する。また、企業と連携した教学マネジメントのもと、特命准教授、専任教員と企業から派遣される非常勤講師が連携して企業が求める人材を育成するカリキュラムを整備するとともに、3者の連携によって学校全体の情報教育を管理する体制を整える。情報系プログラム卒業生の就業状況等について調査するために企業アンケートを実施する。徳島県、阿南市、小松島市、牟岐町と連携協定等を締結していることから、情報教育に関する小中学校向けの出前授業や教員向けの情報教育研修などについて、今後も連携を一層強化する。	産学官金連携（阿南高専、徳島大学、神山まるごと高専、日亜化学工業（株）、（株）レーザーシステム、徳島大正銀行、阿波銀行）による徳島理工系人材育成連携会を定期開催（令和7年度17回）した。 企業との連携では在校生に対して専門技術者の講師派遣、実践的な研究課題の提供、工場見学などを実施した。さらに、企業技術者と連携し、高度情報教育センターにおける実験内容について検討した。特命教員と基幹教員、企業技術者との連携による共同研究を継続的に実施している。 情報教育に関する小中学校向け出前授業（プログラミング授業）や公開講座（プログラミング体験講座）、小中学校教員向け情報教育研修（micro:bitを用いたプログラミング実習初級コース、中級コース）を開催した。さらに、青少年のための科学の祭典徳島大会に特命教員が出展し小中学生向けに体験講座を開いた。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
現在、阿南市内小学校５校に対して出前授業を提供している。また、阿南市内の小中学校の教員を対象にプログラミング教育研修会、小学校教員向けの情報教育研修会、中学校向けの出前授業、小中学生向けの公開講座や体験イベントなどを行っている。また、高専機構の「理工系人材の早期発掘とダイバーシティ型STEAM教育強化」を通して、県内の自治体と協力してオンラインコンテンツの配信を進めている。さらに、徳島県の「とくしま科学技術アカデミーSociety5.0体感事業」を通じて小中学生向けの講座を開設している。本取組では、高度情報教育センターを設立し、支援対象となる小中学校を拡げ、定期的に公開講座を開催し、小中学校における情報教育に関する相談に応じる体制を整える。全国の小中学生を対象とするサマーキャンプを地元企業と連携して実施する。このキャンプでは、情報系プログラムの体験入学や企業見学などを実施する。さらに、高度情報教育センターでのサイバーフィジカルシステムやリモートセンシングシステムの体験会を行う。また、阿南高専学生との交流の場として、高専生による小中学生向けの夏休み自由研究支援などを実施する。	阿南市内小学校５校に対して出前授業（プログラミング）を提供している。また、阿南市内の小中学校の教員を対象にプログラミング教育研修会（8月26日　講座１　プログラミングの初歩の初歩講座、講座２　ドローン体験講座、講座３　情報リテラシー講座）、小学生向けものづくり講座（ザリガニロボットを作ろう、7月13日）小学生向けプログラミング体験講座（8月16日）、中学生向けプログラミング初級体験講座（8月16日）などを実施した。 「夏休み！ものづくり体験イベント」（8月18日、19日、動け！「メカナムホイールロボット！！」、レーザー加工でキーホルダーをつくろう！、micro:bitを利用した計測制御を体験してみようなど）をイオンモール徳島で開催した。 令和8年2月14日、15日青少年のための科学の祭典徳島大会に特命教員2名がAIトレ!:AIの学び方を見てみようブースを出展した。 令和8年度の高度情報教育センター棟完成を見据え、同棟で開催する公開講座やイベント等の実施計画を立案した。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本取組では、地元企業との緊密な協力が最大の特色である。そのため、女子中学生に対して、女性技術者へのインタビューやロールモデルの設定を通して将来像をわかりやすく伝える。さらに、先輩となる女子学生との定期的な交流会を実施することで、入学後のイメージを具体化できるようにする。特に、光と情報を組み合わせたプログラムやサイバーフィジカルシステム・リモートセンシングシステムを活用した教育は、先進的かつ特徴的と同時に、女子学生が取り組みやすいテーマであることを全国に向けて発信する。新設する高度情報教育センターには、明るく広いパウダールームや女子学生専用の交流室を設けるなど、女性の視点に合わせた施設整備を行う。阿南高専では、寮の改修が計画的に進められており、令和５年度に留学生とともに生活する混住型学生寮を新設する。留学生について、3年次編入以外に、昨年度から1年生の受け入れを開始し、日本語教育や学習支援など早期に留学生を受け入れる体制を整えている。高度情報教育センターを活用し、地域企業のDX推進を目的とする社会人向け公開講座を設け、企業が必要とするリスキリングを支援するとともに、社会人学生となる科目等履修生及び聴講生受入れに繋げる。	女性技術者へのインタビューやロールモデルの設定は令和6年度に実施し、継続してホームページから参照できる。令和8年度から利用できるサイバーフィジカルシステムやリモートセンシングシステムを活用した教育内容を検討し、他高専などへの発信を行った。光分野において、他高専との共同研究などが始まっている。女子中学生向けのコンテンツを検討し、高度情報教育センター棟の完成とともに発信できるように準備している。高度情報教育センター棟は女性の視点に合わせた施設整備を実施している。寮の改修も令和7年度、令和8年度と計画的に実施されている。高度情報教育センター棟の完成後に社会人向け公開講座が実施できるように計画を進めている。	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
徳島県における理系高等教育機関に企業を加えた情報人材育成連携協議を令和５年１月から実施し、徳島大学、神山まるごと高専との連携を強化している。徳島大学とは、単位互換や共同研究に関して連携実績があるため、今後もこの連携を強化しつつ、卒業研究論文の新たな指導体制を構築する。神山まるごと高専とは、学生同士の交流から開始し、スタートアップに向けた共同教育などで連携する。阿南高専、徳島大学、神山まるごと高専の学生が共同で起業できるような学生間の連携を図る。全国の高等教育機関から高度情報分野の専門家を講師として招き、短期間での教育体制の構築を図る。本取組で実施する科目を高専間単位互換に提供することで、全国の高専生が受講できることになる。本取組の内容を全国の高専に情報発信し、高度情報教育センターを活用した情報教育を希望する高専と共同で実施する。本校は、オスナブリュック応用科学大学（ドイツ）など15校の海外大学・教育機関と教育研究交流に関する協定を締結している。長期留学生や短期留学生を受け入れるだけでなく、本校学生のインターンシップとしての短期留学なども実施しており、本取組においても連携を促進する。	産学官金連携（阿南高専、徳島大学、神山まるごと高専、日亜化学工業（株）、（株）レーザーシステム、徳島大正銀行、阿波銀行）による徳島理工系人材育成連携会を定期開催（令和7年度17回開催）した。徳島大学との単位互換は継続して行っており、徳島大学と共同研究で連携する計画も継続して進んでいる。また、徳島大学と卒業研究論文の指導体制について検討を開始した。令和7年度電気コース5年生1名が卒業研究を徳島大学と連携して実施した。令和8年度についても電気コースの学生が卒業研究を徳島大学と連携して実施する。神山まるごと高専の学生から、教育内容や進路に関する相談などを直接受けるなど、学生との交流を進めている。高度情報教育センター棟完成後に交流会の実施を予定している。機械分野における情報専門家として特命教員１名を採用した。本取組の事業概要について、ホームページで公開、また、令和5年度に採択された石川高専と情報交換し、連携について検討している。令和7年度には他高専から高度情報教育事業に関する相談があり、本校の実施状況を説明し、他高専との交流を進めている。令和7年度に情報リテラシー２、プログラミング演習、データサイエンスの科目を開始し、在校生への情報教育の充実を図った。プログラム対象の1年生には高度情報教育プログラムに関する説明会を実施した。海外機関との連携について、継続的に実施しており、令和8年度以降の情報系プログラムでの留学生受け入れ体制について検討し、令和9年度にプログラム学生が3年生となるタイミングでの受入を計画している。	

⑦ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和３年度に「リテラシーレベル」の認定を受けている。「応用基礎レベル」は、調書作成時点で令和９年度に申請予定であるが、本取組が採択された場合は、令和８年度認定に前倒しして申請する。すでに、2年次カリキュラムに、線形代数、微分積分、確率統計、情報リテラシー１、データエンジニアリング、データサイエンス、AI応用の科目を配置している。令和６年度３年次に、線形代数、微分積分に加え、情報リテラシー２（アルゴリズム、データ表現）、プログラミング演習の情報系科目を追加、令和７年度4年次に確率統計、データサイエンス、データエンジニアリング、AI応用の科目を実施することで、令和７年度末に「応用基礎レベル」の認定要件を満たす。情報リテラシー２、プログラミング演習、データサイエンスについて、共通科目として開講し、データエンジニアリング、AI応用については、各コースで実施する。「応用基礎レベル」に対応する科目は、情報系以外の科目との並列開講をせず、全学生が受講可能な科目として開講する。	令和7年度に前年度までに実施した授業科目をもとに、応用基礎レベルの認定申請を行い、令和7年8月に認定を受けた。令和6年度までの実施科目には高度情報教育対象の科目である情報リテラシー２、プログラミング演習、データサイエンス、データエンジニアリング、AI応用の科目が入っていないため、令和8年度以降に各情報系科目を対象科目として追加する。 令和7年度は、情報コースの学生については、データエンジニアリング、AI応用の科目を実施、機械コース・電気コース・建設コース・化学コースの学生は4年生でデータサイエンスを実施した。在校生向けに高度情報教育を実施した。	

高等専門学校名	阿南工業高等専門学校	改組内容	学科･コース等の設置･増員（高専）

１.本事業対象となる情報系組織の状況

<合計>

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	38	38	74	74	74	74	74	74	74	74									
	事業計画に定める定員	編入学定員	人	0	0	0	0															
学生の入学･在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	38	38	74	74	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	35	34	69	74	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	8	10	13	24	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	0	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	1	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.92	0.89	0.93	1.00		-		-			-		-		-	-		-	-
	収容定員等	収容定員(C)	人	190	190	226	262	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		編入学定員	人	0	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		在籍者数(D)	人	187	185	210	254	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		編入学者数	人	4	3	3	3	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.98	0.97	0.93	0.97		-		-			-		-	-	-	-		-	-
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	36	42	29	-		-		-			-		-		-	-		-	-
		就職者数	人	22	26	20	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		進学者数	人	13	15	8	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		その他	人	1	1	1	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		進路不明	人	0	0	0	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	3	3	10	9	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		授業科目の単位数	単位	7	7	25	25	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE

高等専門学校名	阿南工業高等専門学校	改組内容	学科･コース等の設置･増員（高専）	本事業対象となる学部等の個数	3

１.本事業対象となる情報系組織の状況

<内訳>

(1) 改組組織名：創造技術工学科情報コース（平成26年度設置）

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
改組状況				選定	届出																	
	事業計画に定める定員	入学定員	人	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38									
		編入学定員	人	0	0	0	0															
学生の入学･在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	38	38	38	38															
		入学者数(B)	人	35	34	33	38															
		女子学生数	人	8	10	2	12															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	1	0	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.92	0.89	0.87	1.00															
	収容定員等	収容定員(C)	人	190	190	190	190															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	187	185	174	182															
		編入学者数	人	4	3	3	3															
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.98	0.97	0.92	0.96															
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	36	42	29	-															
		就職者数	人	22	26	20																
		進学者数	人	13	15	8																
		その他	人	1	1	1																
		進路不明	人	0	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	3	3	4	3															
		授業科目の単位数	単位	7	7	9	9															

高等専門学校名	阿南工業高等専門学校

(2) 改組組織名：創造技術工学科機械コース知能システムプログラム

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
改組状況				選定	届出	開設																
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-	18	18	18	18	18	18	18	18									
		編入学定員	人																			
学生の入学･在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	18	18															
		入学者数(B)	人	-	-	18	18															
		女子学生数	人	-	-	4	6															
		社会人学生数	人	-	-	0	0															
		留学生数	人	-	-	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	1.00	1.00															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	18	36															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	-	-	18	36															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	1.00	1.00															
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	-	-	-															
		就職者数	人	-	-	-	-															
		進学者数	人	-	-	-	-															
		その他	人	-	-	-	-															
		進路不明	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	1	1															
		授業科目の単位数	単位	-	-	8	8															

高等専門学校名	阿南工業高等専門学校

(3) 改組組織名：創造技術工学科電気コース光情報プログラム

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
改組状況				選定	届出	開設																
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-	18	18	18	18	18	18	18	18									
		編入学定員	人																			
学生の入学･在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	18	18															
		入学者数(B)	人	-	-	18	18															
		女子学生数	人	-	-	7	6															
		社会人学生数	人	-	-	0	0															
		留学生数	人	-	-	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	1.00	1.00															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	18	36															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	-	-	18	36															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	1.00	1.00															
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	-	-	-															
		就職者数	人	-	-	-	-															
		進学者数	人	-	-	-	-															
		その他	人	-	-	-	-															
		進路不明	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	5	5															
		授業科目の単位数	単位	-	-	8	8															

高等専門学校名	阿南工業高等専門学校	改組内容	学科･コース等の設置･増員（高専）

２.情報系組織の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
	入学者合計	入学定員（A）	人	38	38	84	84															
		入学者数（B）	人	35	34	79	84															
		女子学生数	人	8	10	20	26															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	1	0	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.92	0.89	0.94	1.00															
	収容定員等	収容定員(C)	人	190	190	236	282															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	187	185	220	228															
		編入学者数	人	4	3	3	3															
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.98	0.97	0.93	0.81															
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	36	42	29																
		就職者数	人	22	26	20																
		進学者数	人	13	15	8																
		その他	人	1	1	1																
		進路不明	人	0	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	3	3	16	16															
		授業科目の単位数	単位	7	7	53	55															

３.高等専門学校全体の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
	入学者合計	入学定員（A）	人	160	160	160	160															
		入学者数（B）	人	162	160	160	160															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.01	1.00	1.00	1.00															
	収容定員等	収容定員（C）	人	800	800	800	800															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数（D）	人	805	806	805	810															
		編入学者数	人	9	9	7	7															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.01	1.01	1.01	1.01															

４.外部資金の状況（全学）

項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
外部資金獲得額	千円	211,271	158,151	144,351																

特記事項

阿南高専の創造技術工学科の学生定員160名は変更せず、高度情報専門分野のプログラムをコース内に令和７年４月に設置する。
高度情報専門人材として、現在の情報コースの１コース38名に加え、機械コース（定員36名）内に知能システムプログラム18名、電気コース（定員36名）内に光情報プログラム18名、計36名を増員する。
入学してから１年間所属のコース･プログラムを定めないため、定めのない期間は入学定員を入学者数とみなし、学生の入学･在籍状況の入学者数を回答している。
入学してから１年間所属のコース･プログラムを定めないため、定めのない期間は入学定員を在籍者数とみなし、学生の入学･在籍状況の在籍者数を回答している。
事業計画に定める定員の編入学定員0人とは、若干名を意味している。
学生の入学･在籍状況の収容定員等の編入学定員0人とは、若干名を意味している。
令和6年度に創造技術工学科情報コース2年に35人配属した（内、女子学生数8人）。
令和7年度に創造技術工学科情報コース2年に34人配属した（内、女子学生数10人）。
令和8年度に創造技術工学科情報コース2年に33人配属した（内、女子学生数2人）。機械コース知能システムプログラム2年に18人配属した（内、女子学生数4人）。電気コース光情報プログラム2年に18人配属した（内、女子学生数7人）。建設コーススマート都市･建築デザインプログラム2年に6人配属した（内、女子学生数5人）。化学コース化学･情報プログラム2年に4人配属した（内、女子学生数2人）。